



神楽へ わが人生をかけて

宮乃木神楽団 創立10周年記念神楽公演

日時 平成20年 **3月16日(日)**

時間 11:00開場 12:00開演 18:00頃終了予定

会場 **千代田開発センター 大ホール**

主催 広島・島根交流神楽実行委員会
(出演神楽団・北広島町神楽を活かした町づくり研究会・千代田観光協会・NPO広島神楽芸術研究所)

プログラム

岩	戸	宮乃木神楽団(広島市)
山	伏	梶矢神楽団(安芸高田市)
頼	政	石見神楽亀山社中(島根県浜田市)
羅	城門	宮乃木神楽団
八岐大蛇	山王	山王神楽団(北広島町)
大江	山	筏津神楽団(北広島町)
紅葉	狩	宮乃木神楽団

ごあいさつ

弟「のー、あんちゃん。わしらの神楽団をつくろうやー」

兄「そうよのー」

弟「のー、あんちゃん。こまい頃から神楽、神楽いうて育て、
若い時考えとったものを中川戸神楽団として舞い尽くしてしもうた。
こんだーこの年になっただけーこそ出来る自分の神楽団を作りたいのよ」
「明治のはじめ頃いうか、神楽がこちらへ来た頃、
神楽がこの地へ根をおろした頃の素朴でも熱い熱い舞いを探して、
わしららしいもんへ仕上げてみたいんヨー」

兄「そうよのー」

「神楽団つくる言うても大ごとでー、わしらまだまだ名もないし
衣裳を揃えるだけの金もない。まーもちーと待てやー」

今から10年前。さらにその10年前に千代田で神楽面工房を開いた兄の管沢良典と、神楽の為なら全て後回しにして生きてきた私との間にこんな会話があったはずです。

そして、その舌も乾かぬ平成10年1月20日。

団員6人。楽は大太鼓と笛しかいないまま、宮乃木神楽団の「神降り」の練習ははじまりました。

活動の拠点となる野原地区の温かい支援に支えられるとともに「やる気のある若者」が一人またひとりと加わり、現在16名で演じられる題目も20を超えるようになりました。

今10年を振り返ってみますと、なんと無茶苦茶な事をしてきたと思う反面に「意志あれば道は通ず」という格言が同時に湧き上がってきます。

1枚ずつ衣裳を作っていく貧しい神楽団へ、大事な衣裳を貸してくださる神楽団。公演先を探して宮乃木神楽団の名を売ってくださる支援者の方々。この10年あつという間に過ぎてしまった気がします。

そのはじめ、梶矢神楽団の方井司良氏に会い、神楽の歴史の重さに人生の重さを加えて伝統の神楽の真の味が出ることを教わりました。

宮乃木神楽団 結成10年のこの時、改めて「先人たちの神楽道を探りながらも、さらに新しい神楽を求める神楽団」として、20周年をめざして歩み始めます。

ただただ皆さまに対する感謝の気持ちを心に刻みながら。

宮乃木神楽団 団長
管沢 秀巳

宮乃木神楽団 団員紹介



顧問 管沢 良典



団長 管沢 秀巳



副団長 山本 貴範



舞子頭 佐々木崇志



舞子頭 田村 和也



児玉 敏之



能海 克也



岡本 健太



舞子頭 半田 徹



田中恵太郎



中田 綱



大谷 仁義



福島 聡



松島 貴幸



上田 幹寛



米田 篤史

あらすじ・出演者紹介

① 岩戸 (宮乃木神楽団)

世の中の光を支配する天照大神は、弟神・須佐之男命による大神の籠もる齋服殿に天斑駒の生剥・逆剥した毛皮を投げ込むなどの乱暴狼藉に立腹し、天の岩戸に引き籠もってしまいます。世の中に光は射さなくなり、暗黒の世界が訪れます。その結果、暗黒に悪神がはびこり、凶事も重なって不安な日々が続きます。

困り果てた八百万の神たちは、天の安の河原での相談の結果、天の香具山の真榊を根こじにし、三種の神器を飾り、常世の長鳴鳥を集めて時を作らせ、その中で宇津女命に岩戸の前で舞を舞ってもらい、にぎやかにはやし立てることにします。

試みは実行され、天照大神が何事かと岩の隙間から顔を覗かせたところを、手力男命が自慢の力にものをいわせ、強引に岩戸を開けると、天照大神が現われ、再び世の中に光が満ち、平和が戻ってくるという物語です。

《出演》

天照大神……岡本健太
児屋根命……半田徹
太玉命……田中恵太朗
宇津女命……福島聡
手力男命……山本貴範
須佐之男命……田村和也
大太鼓……佐々木崇志
小太鼓……管沢良典
手打鉦……中田綱人
手打鉦……大畑公人

② 山伏 (梶矢神楽団)

74代鳥羽天皇の御寵愛を受けていた官女・玉藻前は、希代の美女で生まれながらの美容と妖艶が災いして、事ある毎に疑念を持たれる様になりました。度々の奇怪な噂に天皇より命を受けた陰陽の呪術師・安部泰親は、玉藻前こそ魔性の化身であると進言します。それを聞いて帝も遂に玉藻前を那須野ヶ原に追放され流罪とされました。しかし、この魔性の化身は罪を恥じず妖艶を捨て切れず、この原を往来する旅人にも様々な害をするようになります。時の帝・77代後白河天皇は三浦之介・上総之介に化身退治の勅命を下し、これを討ち取るという物語です。

《出演》

巫邪利祐恵……道庭晃
剛力……田中克明
狐……徳物一則
狐の化身……柴野竜二
三浦之介……大久保俊佑
上総之介……柴野利成
里人……長尾良文
大太鼓……上田正幸
小太鼓……垣内辰雄
手打鉦……石田康博
手打鉦……波多野達也
手打鉦……行田雅春

③ 頼政 (石見神楽亀山社中)

平家物語・源三位頼政の鶴退治伝説を神楽化したものです。

平安時代の末、幼くして即位された近衛天皇のころ、天皇は毎夜丑の刻になると、もののけに悩まされました。勅命を受けた弓の名人・源頼政は、一族の猪早太とともに東三条の森へもののけ退治へと向かいます。やがて夜がふけ月夜を怪しい黒雲が覆うと、もののけの気配を感じた頼政が八幡大菩薩と念じ弓を放ちます。確かな手ごたえがあり、すかさず早太がとどめをさします。やがて雲が晴れ月明かりに照らされたそのもののけの姿は、頭は猿、体は牛、手足は虎、尾は蛇の姿をした怪物でした。また、その泣き声は鶴に似ていたといいます。見事怪物を退治した頼政は、天皇より左大臣頼長を介して、剣を授けられるという物語です。

《出演》

藤原頼長……小川徹
源頼政……梅川昌良
猪早太……大畑心平
農夫……櫛本修
猿……小川晋
猿……川上剛
猿……勝田良順
猿……佐藤慎一
猿……川上斗
猿……川上岬
猿……川上岬
猿……小川大奏
猿……小川由愛
鶴……川上靖
大太鼓……大下一匡
小太鼓……長澤光
手打鉦……新宅充
手打鉦……宇野浩
手打鉦……中村一美

④ 羅城門 (宮乃木神楽団)

京都の守護職・源頼光は、毎夜 羅城門に現われて人々を悩ます怪物を退治することを四天王の中でも武勇の誉れ高い渡辺綱に命じました。

綱は早速羅城門に赴き、丹波の国・大江山に住まいる怪物・茨木童子の左の腕を切り落とします。しかし茨木童子は大江山へ逃げ去ってしまいます。その腕は災いとなる恐れがあるので、陰陽師・安倍清明に八卦を依頼したところ、怪物が妖術を以って取り返しに来る恐れがあるので、綱に七日の間物忌を命じます。

物忌の最中、綱の乳母・白妙に化けた酒吞童子は言葉巧みに腕を取り返し、茨木童子にもみつけますが、それを目撃した綱は童子らに立ち向かいますが、妖術によって倒れてしまいます。その時、石清水八幡のお告げを蒙った頼光が加勢に参じ、立ち合いとなります。童子らは敵わずと見て虚空飛天の妖術を以って大江山に逃げ帰ります。頼光は勅命を仰ぎ、大江山へ鬼人征伐に向かうという物語です。

《出演》

渡辺綱……半田徹
安倍清明……能海克也
乳母白妙……管沢秀巳
茨木童子……山本貴範
酒吞童子……田村和也
大太鼓……佐々木崇志
小太鼓……管沢良典
手打鉦……田中恵太朗
手打鉦……米田篤史

やまたのおろち
⑤八岐大蛇 (山王神楽団)

この神楽の由来は、高高原を追われた素戔鳴尊が、たまたま出雲の国・簸の川の川上で嘆き悲しんでいる足名椎(爺)・手名椎(婆)・奇稻田姫に出会い、その訳を聞き、尊は大蛇退治を決意します。足名椎・手名椎に毒酒を造らせ、やがて現われた大蛇がその酒を飲み、酔い伏して眠ってしまうと、尊は眠った大蛇を退治します。この時、大蛇の尾から出てきた一振りの剣を、尊は「天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)」と名付け、天照大神に捧げ、めでたく奇稻田姫を助け妻にするという物語です。

《出演》
素戔鳴尊……藤岡進 矢
足名椎……藤井英 昌
手名椎……平田俊 文
奇稻田姫……大石陽 介
大蛇……中川克 也
大蛇……高下雅 史
大蛇……前原誠 吾
大蛇……田坂真 昭
大蛇……片岡英 一
大蛇……藤田秀 二
大蛇……平野賢 哲
大太鼓……富田晴 生
小太鼓……前翔 太
手打鉦……是角健 二
笛……川本喜美 代

おおえやま
⑥大江山 (筏津神楽団)

この神楽は、作者も出典も不明ですが、その構成は謡曲中の「大江山」によく似ているので、この謡曲を骨子として神楽化したものであろうと言われていています。その内容は、それぞれの神楽団によって幾分違った点があります。一条天皇の御代、丹波の国・大江山に酒呑童子という悪鬼が、唐熊童子・茨木童子ら多くの手下を従えたとこもり、都や村里に出没し良民を苦しめるので、時の帝は当時都の警備の任に当たっていた武勇の誉れ高い源頼光と、その四天王に悪鬼を成敗するようお命じになりました。四天王は、山伏修験者に変して大江山に向かいます。途中、山中にて三世託神に会い、神酒を授かり悪鬼に都からさらわれた紅葉姫に岩屋を案内させ、神酒を都の酒といつわり童子と酒宴をはり、油断に乗じてこれを討つという物語です。

《出演》
源頼光……上田守 真
渡辺綱……水口一 真
坂田金時……今田修 美
紅葉姫……都甲和 弥
酒呑童子……前河伸 樹
茨木童子……吉岡秀 司
唐熊童子……佐古健 博
手下……鉄穴力 之
手下……橋渡力 之
大太鼓……小田壯 太郎
小太鼓……今田拓 也
手打鉦……小田能 弘
笛……田崎愛 純

もみじがり
⑦紅葉狩 (宮乃木神楽団)

武勇の誉れ高い信濃の国の守(かみ)・鎮守府(ちんじゅふ)将軍・平維茂は勅命を受けて戸隠山の鬼神を退治するために山に分け入るが、美女たちに出会い巧言と怪しい色香にまどわされて酒宴の席に引き入れられ、やがて主従とも酔いしれてしまいます。美女は鬼女の本性を出し喜ぶが、そのとき石清水八幡が夢に現われ、今の美女は戸隠山の鬼神であることを告げ、太刀を授けます。維茂主従は目覚め、この霊剣をもってめでたく鬼神を退治するという物語です。

《出演》
平維茂……半田徹 寛
相良蔵人……上田幹 志
鬼女大王……佐々木 崇
鬼女……田村和 也
鬼女……田中恵 太朗
八幡大菩薩……能海克 也
大太鼓……管沢秀 巳
小太鼓……管沢良 典
手打鉦……中田綱 史
笛……米田篤 史



次回は
平成20年 6月1日(日) 10:00~ 入場料 未定

『壬生の花田植と無形文化財合同まつり』の協賛神楽公演とします。
出演神楽団は、北広島町旧4町で昨年(平成19年)の競演大会で優勝された団にお願いしています。

- 【旧芸北町】 苅屋形神楽団 塵 倫
- 【旧豊平町】 琴庄神楽団 羅 生 門
- 【旧大朝町】 大塚神楽団 大 江 山
- 【旧千代田町】 東山神楽団 伊 服 岐 山

7月以降の月一の舞いは、7月分『石見神楽を語る』日本誕生など、それぞれテーマをもってすすめます。近日中に決定し、神楽情報サイト『神楽の杜』でお知らせします。

神楽の情報については
神楽の杜へどうぞ

神楽情報サイト

「神楽の杜」

<http://www.npo-kagura.jp/>

エネルギー・文化・スポーツ財団 助成事業



携帯 神楽の杜